

# 座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会活動報告書

平成30年7月10日

チーム名	【 地域課題検討 】 チーム
実施年月日	平成28年8月～平成30年7月
内容	<p>平成28年度</p> <p>「高齢者の居場所について」…座間市内の地域資源の把握と掘り起こしに向けた準備</p> <p>平成29年度</p> <p>前半「高齢者の居場所について」…把握した情報を利用者へ適切に提供するための検討</p> <p>後半「認知症について」…「認知症の人にも優しい町づくり」の実現へ向けた活動</p> <p>平成30年度</p> <p>市内共通の困難ケースを考える…「80-50問題」への関わり方を検討</p>
チーム構成員	<p>リーダー：平原（ひばりが丘地域包括支援センター）</p> <p>高間（新田宿地域包括支援センター）</p> <p>川南（相武台地域包括支援センター）</p> <p>後藤（相模台地域包括支援センター）</p> <p>渡邊（立野台地域包括支援センター）</p> <p>金子（栗原地域包括支援センター）</p>
議 事 録	
議事	<p>平成28年度からの経過</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケア会議と地域課題検討会議より上がった、高齢者の居場所問題について取り組むことを当面の目標とし活動スタート。（10月の親会議にて方針報告を実施。）</li> <li>・11月子会議にて各包括支援センターが把握している市内のサロン・サークルの情報共有を実施、包括毎に情報の種類と量にバラつきがあったため、情報を集計しデータにすることで共通のツールとして使用することを目標に今後座間市内の高齢者が参加出来る団体のデータ収集を実施していくことが決定。</li> <li>・29年1月、情報を集めて冊子化する際の注意点として、代表者の連絡先等は個人情報となるので情報を集約した際は包括のツールとして利用し、市民へ直接の情報の公開は行わないことが決定する。情報収集の手段として「ざま市民活動応援広場」へ協力を依頼し、ざまとガイドの連絡網を借りることで市内の活動団体に幅広く情報収集することとなった。</li> </ul> <p>また、市へは今後の地域資源活用と現状把握のため完成した冊子を提出することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月、情報冊子（サロン一覧表）の運用方法等が正式に決定し「ざま市民活動応援広場」へ座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会と座間市介護保健課として正式な協力依頼を行うことが決定。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月、配布する居場所に関する情報収集シートが完成。居場所の次の課題として「見守り」と「認知症」について検討していくことが決定する。</li> <li>・ 7月、情報の冊子化に向け、情報収集シートの集計を開始。 「見守り」に関してさがみが丘のカーサ相模台を手本とした、住民同士の繋がり活動を、東原共同住宅にて開始することが、ひばりが丘包括より報告される。進捗等を都度情報共有することで市内包括の共有議題とすることに決定。また、チームの当面の直近の検討課題は「認知症」に決定。</li> <li>・ 9月、高齢者の居場所に関する情報の冊子（サロン冊子）が完成、今後の日常業務で使用する資源としていく。（市にも情報提供） ※今回情報収集を行った団体の15%が高齢者の参加を認めていない団体であった。 「認知症」については議論を深めるため、市の認知症担当（露木ナース）と連携していくことが決定、座間市と6包括が「認知症」に対して共通認識を持って進んでいくことが出来れば良いとなる。（今後の検討）</li> <li>・ 11月、座間市として「認知症の人にも優しい町づくり」を目指すことを目標に市認知症担当と認知症初期集中支援チーム合同で、検討部会を開催。 →次年度以降、認知症サポーター養成講座の年間計画と管理を実施することで、1年を通して市内のいずれかの場所で認知症について学べる環境を整えること。 →小学校・中学校の生徒を対象とした認知症サポーター養成講座について検討すること。</li> <li>・ 30年1月、座間市として「第7期介護保険計画」に認知症見守り体制・認知症支援について記載するよう準備していくことになる。 また認知症サポーター養成講座も担当月を事前分担することで年間（2カ月に1度の）を通しての定期開催をすることが決定。</li> <li>・ 3月今後の認知症に関する検討等は30年度より新たに各包括へ配置される認知症地域推進員の会議に移行することが決定。</li> <li>・ 5月、市内共通の困難ケースを考えるため、今後の検討課題として「50－80問題」について各包括での事例等を基に検討を重ねていくことが決定。</li> </ul>
<p>今後の課題と まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高齢者の居場所」に関しては新たな地域資源の創出までは至らなかったが、希望者を適切な居場所へ繋ぐための準備が整った。</li> <li>・ 「認知症」に関しては「第7期介護保険計画」に認知症に関する具体的な記述が行われ、「認知症の人にも優しい町」へ少しずつ近づいていけるよう今後も取り組みを進めていきたい。</li> <li>・ 今後の課題：近年急速に増加している「80－50問題」を抱えた困難ケースに関して、対応策に関して、関係者全体での情報共有とノウハウ蓄積のため、事例検討や有識者の講和等を実施しながら対応体制を整えていきたい。</li> </ul>